

平成22年6月30日
水産庁

水産物の市況について（平成22年6月及び7月）

—東京都中央卸売市場における平成22年6月（平成22年5月21日～6月20日集計）の市況と、
平成22年7月の市況見通し（前月との比較）—

I 平成22年6月の全体の市況

東京都中央卸売市場における総入荷量（水産物の生鮮品、冷凍品、加工品の合計）は前月と比べやや増加となり、卸売価格（水産物全体の1キログラム当たり平均価格）はやや弱含みに推移しました。

II 平成22年7月の主要品目の市況見通し

「まいわし（生鮮品）」

入荷量は前月と比べるとやや増加し、型も大きくなると見込まれ、卸売価格はやや弱含みに推移すると見込まれます。

「さけ・ます（塩蔵品・冷凍品）」

入荷量は新物トキサケやベニサケが増加するものの、全体的に見ると前月並みと見込まれ、卸売価格も横ばいに推移すると見込まれます。（新物養殖ギンサケやトキサケが消費地において多く出回ってきている。）

「さば（生鮮品）」

入荷量は前月と比べるとやや増加すると見込まれ、卸売価格はやや弱含みに推移すると見込まれます。（主漁場は北部太平洋海域（鹿島灘～犬吠埼沿岸）、駿河湾から伊豆諸島周辺（ゴマサバ主体）、九州沖合海域、山陰沿岸。）

「するめいか（生鮮品・冷凍品）」

入荷量は日本海主体に水揚げがまとまっており、前月と比べ更に増加すると見込まれ、卸売価格は弱含みに推移すると見込まれます。

「あじ（生鮮品）」

入荷量は前月と比べやや減少すると見込まれ、卸売価格はやや強含みに推移すると見込まれます。（九州では盛漁期だが各漁場とも伸びがない漁況。）

「まぐろ（冷凍品）」

入荷量は赤身類、脂身類ともに前月並みと見込まれ、卸売価格も横ばいに推移すると見込まれます。

「かつお（生鮮品）」

入荷量は先月と比べるとやや減少すると見込まれるが、魚体が依然まだ小さいことから、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。

凡例（目安）

増減率	入荷量	卸売価格
0～2%	並み	横ばい
3～10	やや増加（減少）	やや強（弱）含み
11～20	増加（減少）	強（弱）含み
21～51	かなり増加（減少）	かなり強（弱）含み
51～	大幅に増加（減少）	—

東京都中央卸売市場への総入荷量・卸売平均価格(概数)

(単位:千トン、円/kg)

	6月		前月		前々月	
	入荷量	価格	入荷量	価格	入荷量	価格
22年	53	767	49	807	56	790
前年	53	767	48	798	54	792

注1:入荷量及び卸売価格は、それぞれ前月の21日から当月の20日までの暫定数値。

注2:入荷量は生鮮品、冷凍品、加工品の合計。

主要品目の価格

(単位:円/kg、%)

	東京都中央卸売市場卸売価格(概数)			
	6月	前月対比	前年同月対比	平年同月対比
いわし(生鮮品)	435	78	78	71
さけ・ます(平均)	648	97	107	102
(ぎんざけ塩蔵品)	683	100	101	103
(あきさけ塩蔵品)	368	100	74	90
(ときさけ塩蔵品)	840	100	132	108
(べにざけ塩蔵品)	1,000	100	111	112
(さけ類冷凍品)	639	100	113	108
さば(生鮮品)	346	77	106	104
するめいか(平均)	552	121	138	137
(生鮮品)	603	104	143	143
(冷凍品)	330	100	98	95
あじ(生鮮品)	546	97	110	99
まぐろ(冷凍品)	1,237	93	88	91
(めばち冷凍品)	883	96	99	97
(きはだ冷凍品)	726	99	86	101
(くろまぐろ冷凍品)	2,860	100	78	86
(みなみまぐろ冷凍品)	1,787	99	90	79
かつお(生鮮品)	916	71	114	128

注1:品目により、市場で主流となる形態が異なることから、市況を把握する指標としてもっとも適当な形態についての価格データを掲載している。

注2:6月の価格は1~20日までの速報値。平年とは平成17年~21年の加重平均値。

注3:さけ類冷凍品は、主として、ぎんざけ、あきさけ、ときさけ、べにざけ、アトランティックサーモンが含まれる。

注4:さけ・ます(平均)は、さけ・ます類全般の塩蔵品及び冷凍品が含まれる。

注5:まぐろ(冷凍品)は、めばち、きはだ、くろまぐろ、みなみまぐろが含まれる。

問い合わせ先:水産庁加工流通課企画調査班
 代表 03-3502-8111
 内線 6617 中谷、小林
 直通 03-3591-5612